

振り返ってみれば

この度はこのような機会をいただき、ありがとうございます。2018年4月に不安と期待を抱きながら初期臨床研修医として働き始めた時から早くも1年が経過しました。働き始めた当初は何もかもが分からないことばかりで、2年目の研修医の先生方が堂々と働く姿をとてもまぶしく感じていました。自分も早くそうなりたいと先輩方の背中を追いかけ続けていましたが、気がつけば自分にも研修医の後輩ができるという状況に正直戸惑いを隠せません。思い返せばこの1年間は本当に仕事一色の日々でした。急性期病院ということもあり、刻一刻と病状が変わっていく患者さんを前にして無力な自分を思い知らされ悔しい思いをしながらも、上級医の先生方やコメディカルの方々にたくさん助けていただきながら日々を必死に歩んできました。一人の医師として責任を持って患者さんを担当させていただけこの病院では、研修医だから

JCHO九州病院 いしかわ まほ
石川 真帆

という甘えは通じず、業務が終わらず気がついたら日付を越えていることや、休日を忘れて仕事をしていたことも珍しくはありませんでした。いつも仕事の遅い自分にどうすればいいのかと思悩んだ日々もありましたが、ふと1年前の自分を考えると、これでも成長できているのだなと実感できるくらい最初は何もできなかったことを思い出します。

この1年間、周りの人に教えてもらうことでたくさん成長させていただきましたが、これからは教えるを乞うことに加えて一つ下の後輩に教えるということでもさらに多くのことを学んでいきたいと思います。1年間を通して日常業務にも慣れが出てきたところですが、再び1年前のような新鮮な気持ちを持って、あの日憧れた先輩方のようになれるよう気を引き締めてより一層頑張っていきたいと思います。

研修を通じて

JCHO九州病院研修医1年目の今村 柁紀と申します。JCHO九州病院では同期の研修医は11人、2年目の先輩も11人と非常に研修医の数に恵まれています。優しく指導してくださる上級医の先生にも恵まれ、うまく行かないときでもたくさんの助言をいただきながら日々を過ごしています。このような恵まれた環境下で研修生活を送り、まもなく1年が経過しようとしていますが、急性期病院であるこの病院では状態の安定しない患者さんが大勢入院されており、学びの毎日が続いています。患者さんやその家族から質問を受けることも多々あるのですが、自分に知識が満足についていないため、患者さん

JCHO九州病院 いまむら まさき
今村 柁紀

の疑問に対して上手く答えることが出来ないばかりか、患者さんに強く当たってしまうことがありました。そんな中である時上級医のICに入ったところ、疾患や治療についてだけでなく日々の生活や退院後の計画まで踏まえてきちんと分かりやすく伝えており、患者さんからの質問に対しても少しも声を荒げることなく話していました。患者さんの疑問に答えるためには自分の知識が必要不可欠であり、患者さんへの自分の態度は知識量をそのまま反映しているのだなと痛感しました。今後も積極的に上級医のICや回診に参加し、患者さんへの接し方や知識・経験を積んで行こうと思っています。